

HOW WE REALIZE OUR GOALS

目指す姿を実現するための 三菱UFJ信託銀行のアクション

成果のある責任投資を实践し、経済価値と社会価値を両立する。そして「安心・豊かな社会」を実現する。
この目指す姿を実現するための、三菱UFJ信託銀行の様々な取組みをご紹介します。

24 強化を続ける5つのアクション

- 1 「MUFG AM 責任投資ポリシー」の策定
- 2 「重大なESG課題」の特定と見直し
- 3 ガバナンス体制への組み込み
- 4 推進体制におけるPDCAの実践
- 5 First Sentier Investorsとの協働

38 「重大なESG課題」への貢献

気候変動／人権・ダイバーシティ／健康と安全／
ガバナンス体制／情報開示

58 運用、調査・研究、基盤強化の 取組み

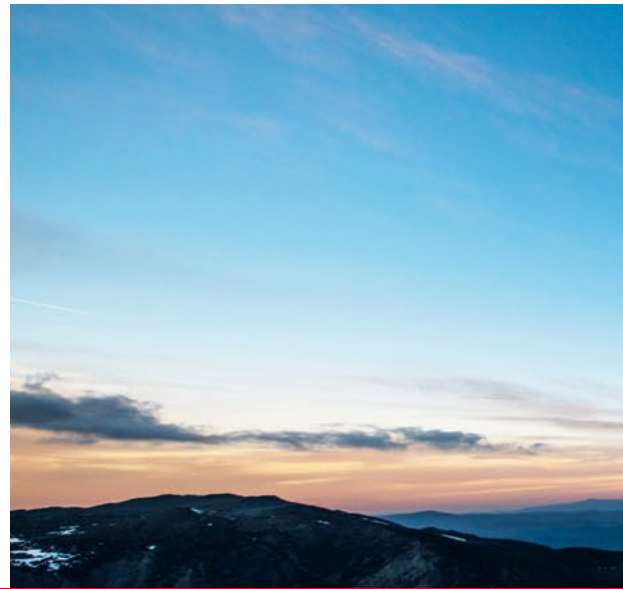


強化を続ける 5つのアクション

三菱UFJ信託銀行が力を入れる、成果のある責任投資を実践するための
基盤強化の取組み、グローバルの先進的知見を取り入れた調査・研究の取組みについて、
5つをピックアップしてお伝えします。

1

強化を続ける
5つのアクション



大切な運用資産で ESGを考慮することを 明文化

「MUFG AM 責任投資ポリシー」の策定

三菱UFJ信託銀行は、責任投資活動の指針として2019年7月に「MUFG AM^{*} 責任投資ポリシー」を策定しました。

責任投資原則(PRI)の6原則に則った6つの原則で構成されており、運用プロセスにESGを組み込むことを明言しています。また、投資対象の選定や議決権行使においてESGを考慮することに加え、投資対象の適切なESG情報開示、責任投資の普及活動、各種イニシアティブとの協働などに取り組むことも定めています。

責任投資に関する活動においては、常にこの「MUFG AM 責任投資ポリシー」に立ち返ることで、軸の揺らぐことがない、成果のある責任投資へと繋げていきたいと考えています。

このポリシーは、三菱UFJ信託銀行とその子会社である三菱UFJ国際投信、MU投資顧問、Mitsubishi UFJ Asset Management (UK)、三菱UFJオルタナティブインベストメンツも採択しています。グループ一体となり、社会課題の解決に積極的に取り組みながら、投資先の持続的な事業成長と価値向上の実現を目指します。

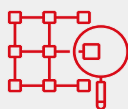
※三菱UFJフィナンシャル・グループにおけるアセットマネジメント事業を担う主要な子会社のブランド名。
三菱UFJ信託銀行、三菱UFJ国際投信、MU投資顧問、Mitsubishi UFJ Asset Management (UK)、
三菱UFJオルタナティブインベストメンツの5社



MUFG AM 責任投資ポリシー

原則 1

投資判断



投資分析と意思決定のプロセスに ESG の課題を組み込みます

原則 2

アクティブ オーナーシップ



(運用資産の)活動的な所有者(アクティブオーナーシップ)になり、所有方針と所有慣習に ESG の課題を組み入れます

原則 3

情報開示



投資対象の主体に対して ESG の課題について適切な開示を求めます

原則 4

普及活動



資産運用業界で本原則が受け入れられ、実行に移されるよう働きかけを行います

原則 5

協働



本原則を実行する際の効果を高めるために協働します

原則 6

報告



本原則の実行に関する活動状況や進捗状況に関して報告します

2

強化を続ける
5つのアクション

責任投資の“起点”として、 社会の今を捉えたものに 「重大な ESG 課題」の特定と見直し



責任投資の「起点」と位置付け、

お客さまからお預かりした運用資産で考慮

「安心・豊かな社会」の実現のためには、グローバルな視点から環境や社会への影響の大きい ESG 課題の把握・分析・特定・解決が不可欠です。私たちは、「安心・豊かな社会」の実現と、実際の運用資産における長期的・安定的リターン向上への影響度が特に大きい ESG 課題を「重大な ESG 課題」と定義しています(右上図参照)。これを私たちの責任投資の「起点」と位置付け、「MUFG AM 責任投資ポリシー」に基づき、原則、「重大な ESG 課題」を考慮し、責任投資への取組みを推進しています。

世界のリーディングプラクティスとして

認められた特定プロセス

「重大な ESG 課題」の特定プロセスは、MUFG 傘下の運用会社、MUFG AM の知見を集結して議論を重ね、構築・改良に取り組んできました。

2020年1月には、ESG 課題の重要度を評価するフレームワークとして、国内の運用機関として初めて「マテリアリティ・マトリクス」を導入しました。「社会における重要度」を縦軸に、「MUFG AM の運用における重要度」を横軸としたマトリクスに、それぞれの視点から選定した課題をマッピング。双方にとって重要度の高いものを「重大な ESG 課題」

として特定しています。

本フレームワークは、英国 NPO 「ShareAction」 から世界のリーディングプラクティスとして認定され、2021年3月、同 NPO が公表したレポート(「Leading Practice Guide」 <https://api.shareaction.org/resources/reports/ShareAction-Leading-Practice-2021.pdf>) で、この特定プロセスが紹介されました。

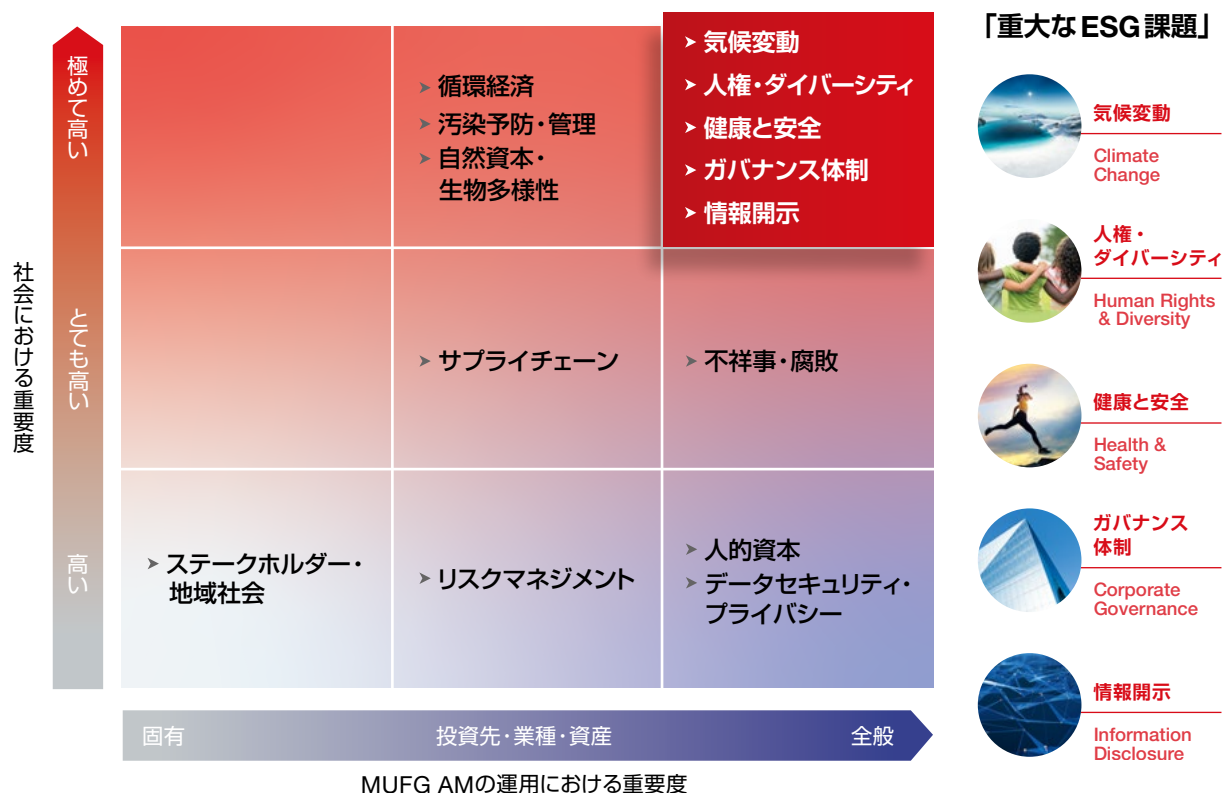
年1回のレビューにより社会の「今」を反映

「重大な ESG 課題」は、環境や社会を取り巻く状況によって変わり得ることから、私たちは、年1回、前述した「重大な ESG 課題」の特定プロセスに基づいて定期的なレビューを行っています(右下図参照。詳細は P28-29 参照)。

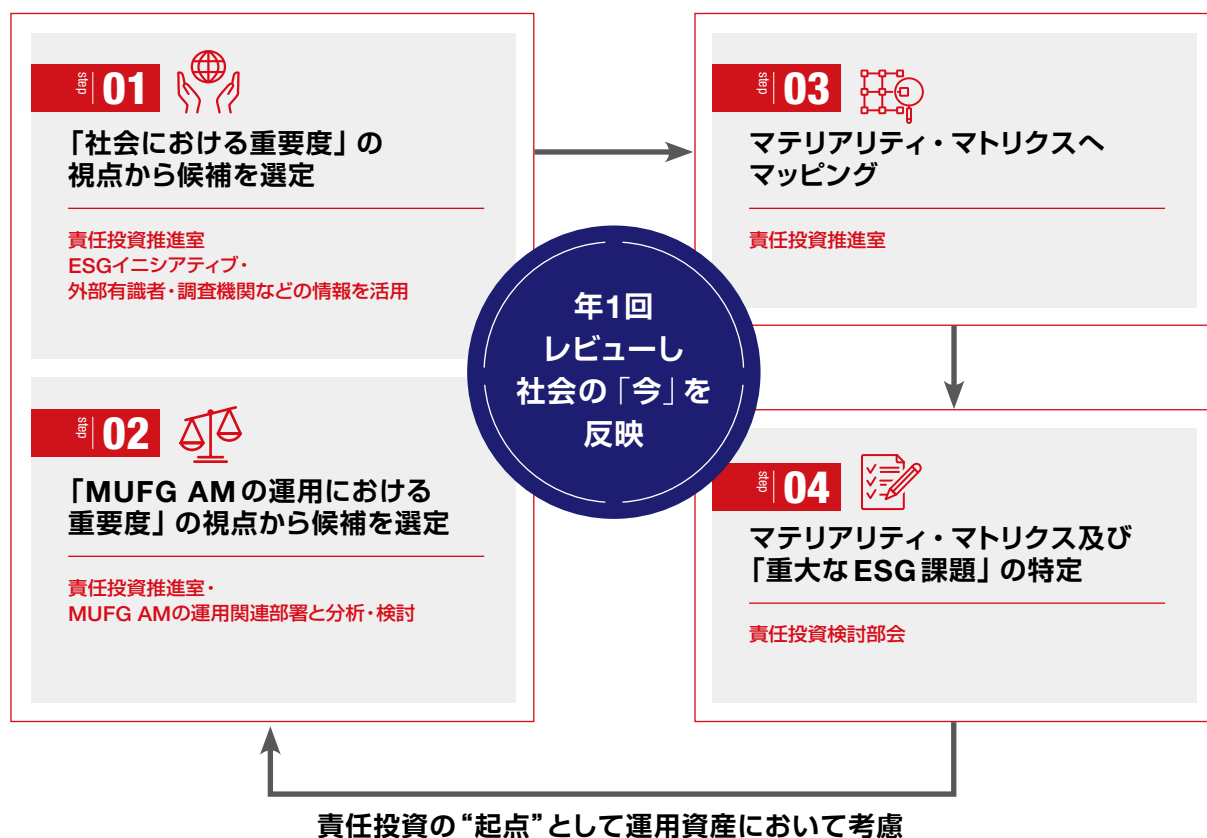
「重大な ESG 課題」のレビュー結果は、当社が独自に構築している ESG データベースの評価項目や評価ウェイトに反映し、企業価値の評価プロセスに組み込んでいます。投資先とのエンゲージメントにおいても、「重大な ESG 課題」を投資価値向上のために対話すべき内容と位置付け、レビュー結果を踏まえた投資先への働きかけを行っています。

今後も、さらなる高度化に取り組み、経済価値と社会価値の両立に結びつく、真に「重大な ESG 課題」の特定に尽力していきます。

マテリアリティ・マトリクスと「重大な ESG 課題」（2022年1月時点）

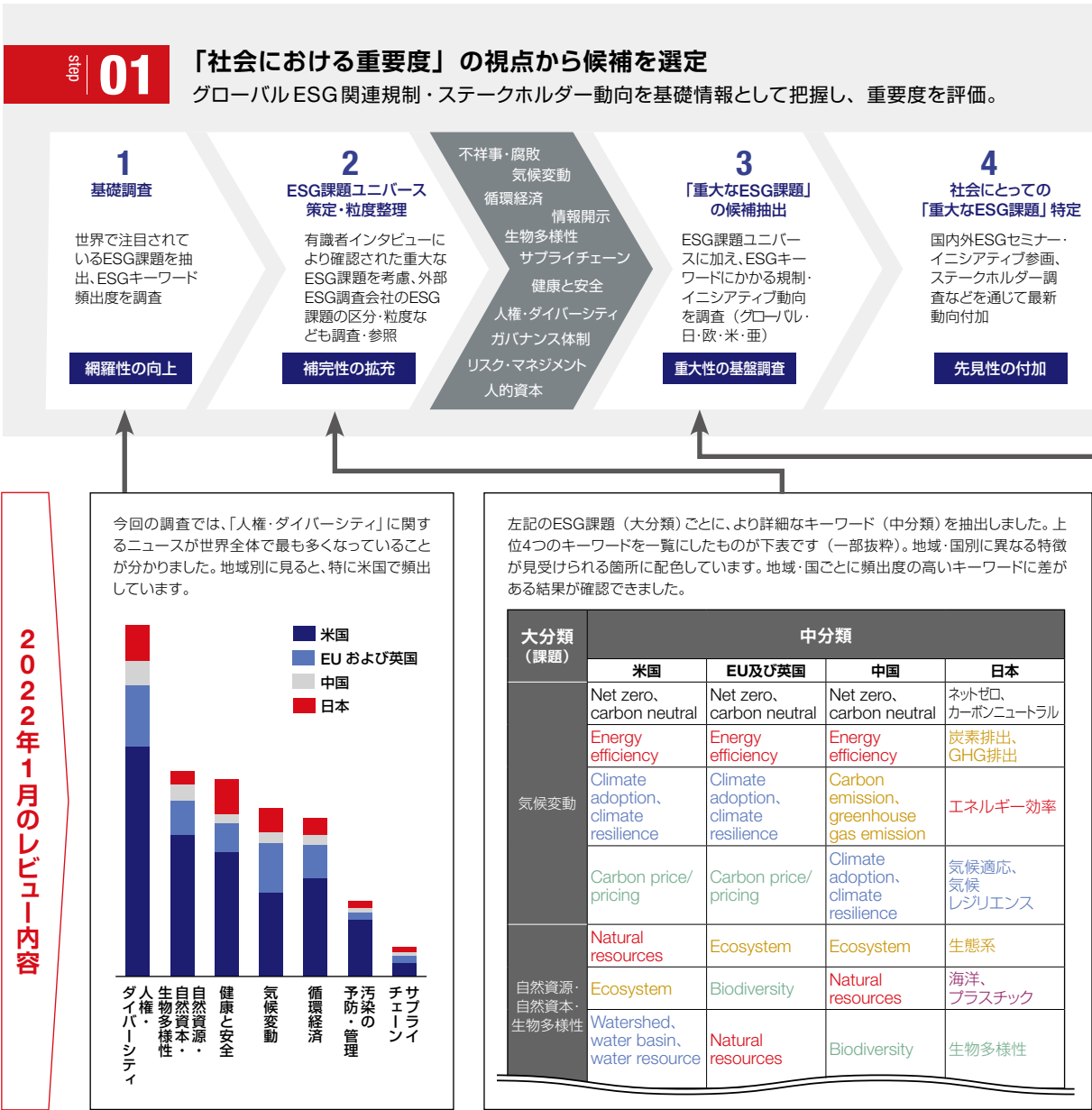


「重大な ESG 課題」の特定・レビューのプロセス



特定プロセスの詳細及び2022年1月のレビュー内容（一部）

「重大な ESG 課題」特定プロセスの詳細及び2022年1月に実際に行ったレビュー内容の一部をご紹介します。



現局面の社会 における 重要課題を選定

国・地域ごとに各キーワードに関する規制・イニシアティブの最新動向を調査し、その影響（義務か、自主的なかなど）を検討しました。下表はその結果を色の濃さでマッピングしています。

課題	中分類	米国	EU	中国	日本
気候変動	GHGネットゼロ／カーボンニュートラル				
	カーボンプライシング				
	エネルギー効率化				
	適応（レジリエンス）				
循環経済	資源効率化・材料代替				
	廃棄物管理				
	プラスチック				
自然資源・汚染	水ストレス				
	水質汚濁				
	大気汚染				
	土壌汚染				
生物多様性	生態系の回復・保全				
	自然資源の過剰利用				
人権・ダイバーシティ					
健康と安全					
サプライチェーン					
データセキュリティとプライバシー					

現局面の運用 における 重要課題を選定

step 03 マテリアリティ・マトリクスへマッピング

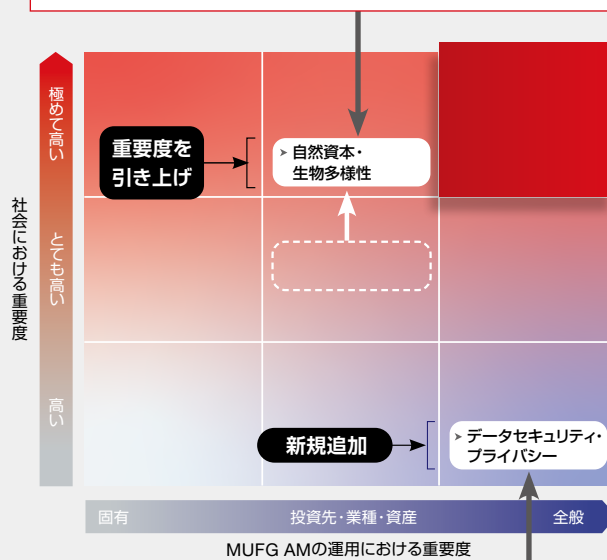
「社会における重要度（縦軸）」及び「MUFG AMの運用における重要度（横軸）」のレビュー結果を考慮し、マテリアリティ・マトリクスへマッピング。

2022年1月のレビュー内容

「自然資本・生物多様性」の「社会における重要度」を引き上げ、新たに「データセキュリティ・プライバシー」を追加しました。

重要度を変更した「課題」と変更の理由

TNFD（自然関連財務情報開示タスクフォース）発足など、自然資本・生物多様性への世界的な関心の高まりを受け「社会における重要度（縦軸）」を引き上げ



「社会における重要度（縦軸）」の観点から、サプライチェーンに匹敵する重要度を確認し、データセキュリティ・プライバシーを新規追加

「MUFG AMの運用における重要度（横軸）」は、SASBスタンダードにおけるデータセキュリティの重要性などを踏まえ、高いと評価

step 04 マテリアリティ・マトリクス及び「重大な ESG 課題」の特定

3

強化を続ける
5つのアクション

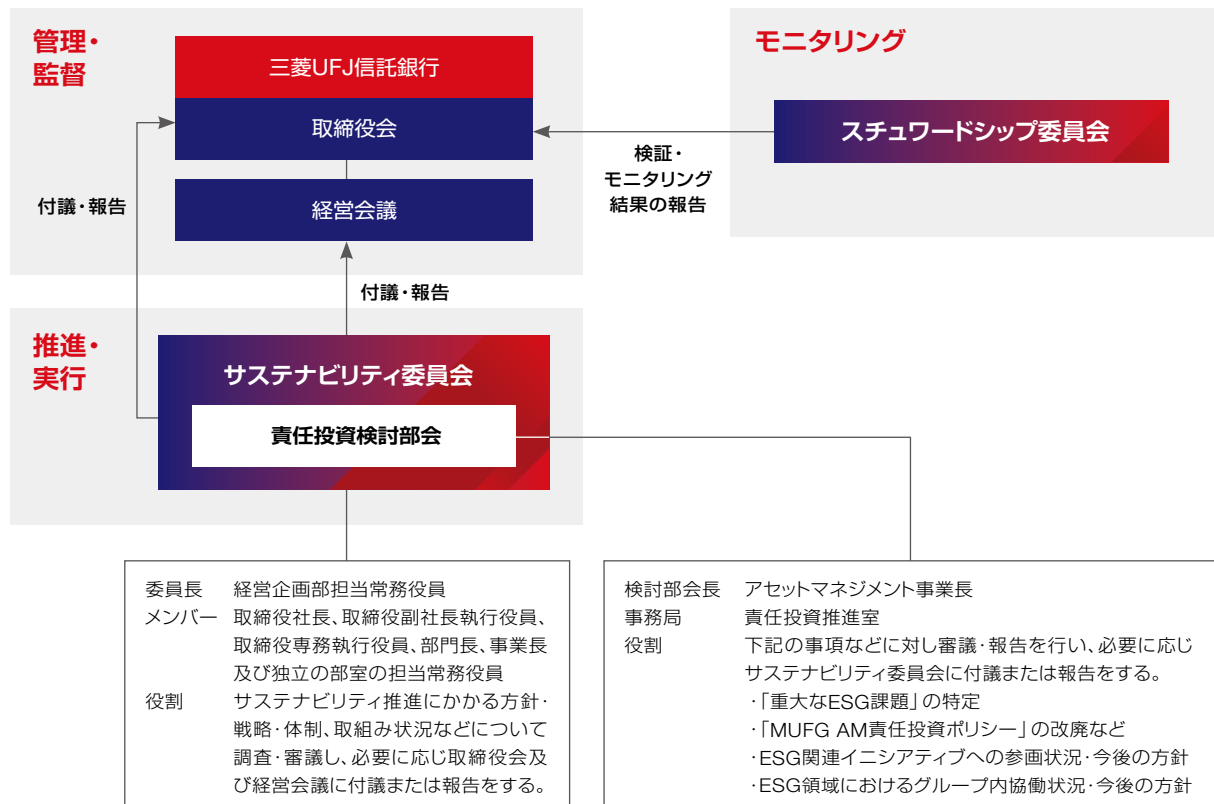
取締役会・経営会議直下の 管理・監督でコミットメントを強化 ガバナンス体制への組み込み



三菱UFJ 信託銀行では、責任投資をガバナンス体制に明示的に組み込んでいます。あわせて、従来は任意の会議体であった責任投資会議を、サステナビリティ委員会の一部に組み入れ、「責任投資検討部会」に改組しました。「責任投資検討部会」では、「重大なESG課題」のレビュー結

果やESG領域におけるグループ内協働状況などを審議・報告し、その内容は、社長・執行役員・部門長などから構成されるサステナビリティ委員会を通じて、経営会議・取締役会に付議・報告を行っています。

ガバナンス体制



4

強化を続ける
5つのアクション

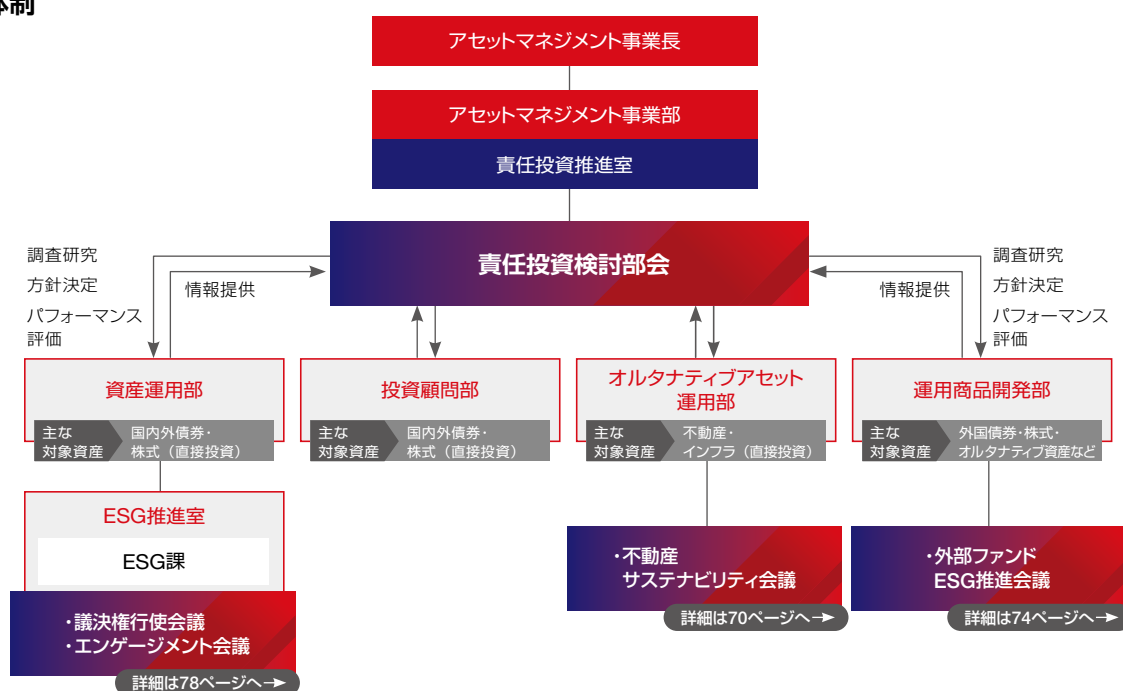
日々の実務で、 改善を図る 推進体制におけるPDCAの実践



三菱UFJ信託銀行では、ESGの視点を着実に組み込んでいくための推進体制を構築しています。牽引役を担う責任投資推進室は、お客さまからお預かりした受託財産運用の企画・推進を担う部署に属し、ESGを巡るグローバルな動向や責任投資の知識・ノウハウを蓄積すると共に、責任投資の実務を担う各部に対して方針の指示、助言、情報共有、パフォーマンスの評価などを行います。実務を担う各部は、ESGの視点の組み込み状況などに関する情報共有を行い、トップダウン・ボトムアップの双方向で知見の蓄積に取り組

み、各運用資産におけるESGの組み込みを推進しています。運用実務を担う各部も参加する責任投資検討部会では、各運用資産における責任投資の取組みの計画・方針や進捗状況などを議論し、PDCA(Plan-Do-Check-Act)サイクルの実践により、各運用資産における責任投資の取組みを推進しています。また、各部にも定期開催する会議体を設置し、各々の対象資産における実務の推進と改善、そのレベルアップに取り組んでいます。

推進体制



5

強化を続ける
5つのアクション

グローバルな知見との シナジーを生み出す First Sentier Investorsとの協働



三菱UFJ信託銀行は2019年にオーストラリアの資産運用会社First Sentier Investors(以下、FSI)を買収しました。協働での調査・研究やエンゲージメントなど、両者の知見を掛け合わせた取り組みを進めています。

中立性の高い情報を、世界の投資家へ MUFG ファースト・センティア サステナブル投資研究所における調査・研究

三菱UFJ信託銀行とFSIは、サステナブル投資へのコミットメントを対外的に広く周知する取り組みの一つとして、2021年に「MUFG ファースト・センティア サステナブル投資研究所」を設立しました。ESGに関するマクロ・規制面の変化や企業・セクター・経済・社会・自然環境などを与えるインパクト、投資パフォーマンスへの影響などに関して、これまで以上に掘り下げたリサーチを行い、中立的かつ実践的な情報をご提供していきます。

なぜ「中立的かつ実践的」な情報が重要なのか

今、私たちは、気候変動や生物多様性などの環境面の問題、人権や格差・貧困などの社会面の問題が複雑に絡み合い、極めて速いスピードで、その深刻さが増大している状況に直面しています。サステナビリティを巡る問題は複雑であり、その原因の解明には詳細な分析が必要です。同時に、世界の多くの投資家は、持続可能な社会の重要性を既に理解し、様々な問題の解決に向けて動き出そうとしており、「投資家として何をすれば良いのか」という具体策を模索しています。そのような投資家に、中立的で実践的なリサーチ情報を提供することで、適切な意思決定の一助となり、責任投資の普及と資本市場の発展に貢献していきたいと考えています。

外部有識者からなる組織で独立性を担保

本研究所は、当社とFSIから独立した組織として運営しています。リサーチ情報の中立性を確保するために、外部有識者などで構成する「アカデミック・アドバイザリー・ボード」を設置。サステナブル投資を巡るトレンドや外部有識者の助言などを基に、「ステアリング・コミッティ(運営委員会)」で調査・研究対象を特定していきます。アカデミック・アドバイザリー・ボードはサステナブル投資、ESGに関連する外部有識者の専門知識に基づく助言や各種情報、提案などを通じて、市場トレンドやマーケットスタンダードに沿ったレポートテーマの検討が可能です。また、本研究所のリサーチ結果が世界の先進的な水準を満たすよう、独立した監督機能も果たしています。

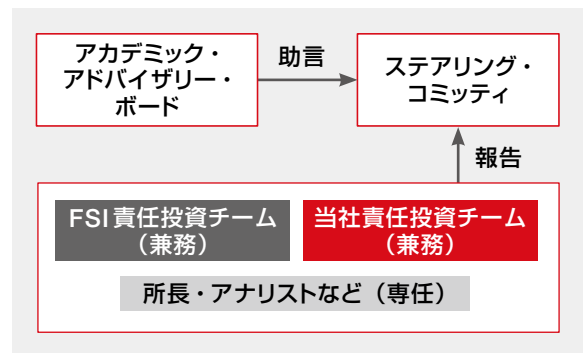
3本のレポートを発信

2022年6月現在、本研究所からは、3本のリサーチレポートを発信しました。例えば、欧州で急速に関心が高まっている「マイクロファイバー汚染」に関するレポートは、その調査・分析結果などを実際の国内外の企業との協働エンゲージメントで活用し、当社はFSIと共に、海外の運用機関も巻き込みながら、世界の環境・社会問題を解決に導く協働エンゲージメントなどにも取り組んでいます。

MUFG ファースト・センティア サステナブル投資研究所の概要

目的	サステナブル投資の普及と世界の資本市場の発展、ESG 課題の解決を推進。持続可能でより良い世界の創造に貢献する
リサーチ・研究対象	ESG に関するマクロ・規制面の変化、企業・セクター・経済・社会・自然環境などに与えるインパクト、アウトカム、投資パフォーマンスへの影響など
情報発信対象	世界の先駆的な機関投資家（年金基金・SWF・金融機関など）。その他投資家に対しても、ニーズを踏まえた情報を発信

MUFG ファースト・センティア サステナブル投資研究所の体制



これまでに発信したレポート

レポートの全文はMUFG ファースト・センティア サステナブル投資研究所の公式ウェブサイトにてお読みになれます。
<https://www.muft-firstsentier-sustainability.jp/>

	気候と サステナブルファイナンス	気候変動問題と金融を巡る政策的ランドスケープを概観し、気候変動問題に対して投資家を取り得る行動指針の導出をまとめています。
	マイクロファイバー： 繊維製品による見えない環境汚染	マイクロファイバーの放出経路と要因を明らかにした上で、求められる取組みについて提言を行います。
	マイクロプラスチック汚染： その原因・影響と投資家にとっての課題	マイクロプラスチックが動物と人間の食生活へと取り込まれる道筋を明らかにし、関係者が果たし得る役割について解説しています。

Message

サステナブルな社会の実現に欠かせない研究を

蟹江 憲史

慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 教授

パンデミックが深刻な影響を与え、戦争の影響が食料問題やエネルギー問題を悪化させ、気候変動のインパクトが目に見えて感じられるようになってきた昨今の世界では、これまでの経済や社会のあり方を変革する必要があります。SDGsが求める持続可能な社会へ向けた「変革」はまだ進んでいませんが、その種は見えてきています。点を線に変え、さらに面に展開していくために、ファイナンスの力は欠かせません。

これまでの社会からの変革や、サステナブルファイナンスを加速するための方策はまだ未知の領域です。SDGsが示すような持続可能な社会に向か

うためには何が必要で、障害はどこにあるのか、それを乗り越えるにはどのような方法があるのか。あるいは、そもそもSDGsの実現を具体的な事柄に落とし込むとどのようなことが起こり、短期的、長期的なリスクや機会がどう変わっていくのか。こうしたことを明らかにしながら、サステナブルな社会に貢献するためのファイナンスを考えていく必要があります。

人類と地球の将来と、今の取組みをつないでいくための研究を推進していく本研究所の取組みは、サステナブルな社会の実現には欠かせないものになると考えます。今後の取組みに益々期待したいと思います。

課題解決に向け、共に業界・企業へ働きかける FSIとの協働エンゲージメント

■ Micro-fiber Engagement Program

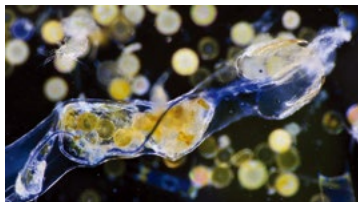
マイクロファイバー流出防止フィルターの 装備を推進

Micro-fiber Engagement Programは、英国の非営利団体であるMarine Conservation Society(海洋保護協会)の協力のもと、FSIが立ち上げた協働エンゲージメント・プログラムです。協働エンゲージメントを通じて、世界の家庭用及び業務用洗濯機メーカーが洗濯機にマイクロファイバー^{*1}流出防止フィルターを標準装備することを目指しています。

繊維製品や衣料品などで使用される天然繊維、合成繊維、全ての繊維から抜け落ちるマイクロファイバーは、年間48～428万トンも自然環境に放出されています。放出されたマイクロファイバーは自然界で簡単には分解されず、ヒトは大気中に浮遊しているマイクロファイバーを吸い込み、食物連鎖を通じて魚などの生物が摂取したものを意図せず体内に取り込むことで、健康被害に繋がる可能性もあります。

私たちは、Micro-fiber Engagement Program の設立メンバーの一員として2020年9月に本プログラムに参画し、FSIと共にエンゲージメントを推進しています。

^{*1} マイクロファイバーとは、一般的に繊維製品または関連繊維製品から抜け落ちる天然または合成の微細繊維で、直径が50マイクロメートル以上、長さが1μm～5mm、直径に対する長さの比率が100以上のもの。画像は、ヤムシ(動物プランクトンの一種)がマイクロファイバーを摂取して、腸内の餌の通り道が塞がれてしまっている様子



本プログラムの目標

- 2023年末までに、洗濯機メーカーが、新たに製造・販売する洗濯機にマイクロファイバー流出防止のフィルターを標準装備することを約束するよう働きかける
- 政府・政策立案者に対して、フィルターを装備していない家庭用及び業務用洗濯機の新規販売を禁止する法律を制定するよう働きかける

■ Investors Against Slavery and Trafficking Asia Pacific

企業に対し

現代奴隷の問題解決を支援

Investors Against Slavery and Trafficking Asia Pacific (IAST APAC)は、FSIの呼びかけで始まったイニシアティブであり、現代奴隷の根絶に取り組んでいます。アジア・パシフィック地域に拠点を有する機関投資家で構成され、全体で36社、運用資産残高の合計は約7.7兆豪ドル(約700兆円)となっています(2022年7月現在)。

近年、欧米諸国を中心に現代奴隷を含む、人権デューデリジェンスに関する法律の整備が進んでいます^{*2}。一方で、Walk Free Foundation(現代奴隷の根絶を目指す国際人権団体)が発表した調査結果「The Global Slavery Index 2018」によると、日本では2016年時点で約3.7万人が現代奴隷の状態にあると推計されており、日本においても現代奴隷は課題となっています。

私たちは、2021年2月にIAST APACに加盟し、FSIと共に投資先企業とのエンゲージメント活動に取り組んでいます。現代奴隷に関する企業の評価及び分析においては、企業の開示資料のほか、「Sustainalytics社」や「Corporate Human Rights Benchmark(企業人権ベンチマーク)」などのデータを参考にしています。エンゲージメント目標の設定や計画の策定にあたっては、現代奴隷に関する投資家向けツール・キットを活用し、3年間のエンゲージメント期間を通じて、対象企業が現代奴隷の問題を認識し、適切な対応や補償、予防(Find It, Fix It, Prevent It)を行うことを支援しています。

^{*2} アメリカの「カリフォルニア州のサプライチェーン透明化法」、イギリスとオーストラリアにおける「現代奴隷法」、フランスの「人権デューデリジェンス法」、オランダの「児童労働デューデリジェンス法」など

本イニシアティブの目標

- 協働エンゲージメントを通じて、企業の現代奴隷や労働搾取などの絶滅を目指す

投資家として目指していきたい、 「理想の責任投資」とは？ ～2社の現在地と、責任投資のこれから～

三菱UFJ信託銀行(以下、MUTB)とFSIは2019年以来、責任投資において協働を進めてきました。
現在までにどのような成果が生まれているのか？ 今後の責任投資市場にどのように貢献していきたいか？
責任投資ヘッド同士で対談しました。



加藤 2019年にFSIがMUTBの傘下となって以来、私たちは責任投資ヘッド同士で、時にはチームメンバーも交えて定期的に意見交換し、連携を強化してきました。改めて、FSIの強みについて教えてください。

Will ひとつ言えるのは、FSIは責任投資において長年の実績があるということです。責任投資に本格的に取り組み始めた2007年以降、私たちは試行錯誤を重ね、組織としての知見を蓄積してきました。課題の特定、ベストプラクティ

スの共有などを通じて学び合い、理解し合うプロセスは社内だけでなく社外にも広がり、現在ではMUTBの皆さんとも協働しています。

加藤 そんな私たちの協働の象徴とも言えるのが、2021年5月に共同で設立した「MUFG ファースト・センチア サステナブル投資研究所」(以下、研究所)ですね。ESGやサステナビリティが重要だというけれど、投資家の中には、こうした課題にどのように取り組めばよいかわからないという

人も多いです。世界の投資家のニーズに応え、中立的で実践的なリサーチ情報を提供することを目的として設立しました。

Will この研究所は、私たちの協働プロジェクトの中で他に類を見ない取組みだと思います。設立してまだ1年ですが、既に3本のレポートを発表しました。テーマは「マイクロプラスチック汚染：その原因・影響と投資家にとっての課題」、「マイクロファイバー：繊維製品による見えない環境汚染」、そして「気候とサステナブルファイナンス」。テーマ設定が具体的でユニークだということで、市場からの反応も上々です。この取組みはまだ発展の余地があるので、引き続きFSIとMUTB双方にとっての価値を追求していきたいですね。

加藤 それから、複数の投資家が協働して投資先に働きかける、いわゆる「協働エンゲージメント」もFSIとMUTBの

大きな成果だと思います。欧州の運用機関はエンゲージメントについての目的意識を明確に持っていて、目的達成に向けたタイムラインや、うまくいかないときの対応などの知見と経験が日本以上に体系化されています。さらに、FSIは現代奴隷やマイクロファイバーといった課題に関するベストプラクティスも熟知しています。私たちMUTBは欧州の水準に早期に追いつくために、FSIの考え方や取組みも踏まえながら、投資先とのより効果的なエンゲージメントに取り組んでいます。

Will 仰る通り、欧州のエンゲージメントはかなり進んでいます。欧州では2010年に初めて英国スチュワードシップ・コードが制定されたのですが、ここでエンゲージメントの重要性が世界に先立って明記されました。このコードは2020年に改訂され、各国の責任投資市場でスチュワードシップを実践するためのモデルにもなっています。今後も協働を通じて、



私たちは日々、ESG課題への
理解を深めようと、ともに努力を続けています。
その最たる例が
「MUFG ファースト・センティア
サステナブル投資研究所」です。

(Will)



ESG課題とはどういうものか、
なぜそれが重要なのか。
私たちの考え方を発信することが、
「自分ごと化」に繋がると思います。

(加藤)



日本のエンゲージメントがさらに発展していけるよう支援できればと思います。

加藤 責任投資市場の現状については、どのように捉えていますか？

Will ここ数年、欧州では規制の強化が進み、ESG への意識改革やサステナブル投資を促進する引き金となっています。お客さまは投資リターンの向上だけではなく、投資先の事業活動が環境や社会に悪影響を及ぼしていないかも懸念するようになりました。ESG 課題の後退を招くような投資には、すかさず「No」という答えを出しています。このように、財務面だけでなく非財務面の投資の成果を検討するためにも、責任投資は益々重要性を増しています。米国やアジアの市場でも、同様の議論が進んでいるのではないのでしょうか。

加藤 仰る通りです。ESG 課題と一口に言っても、「気候変動だけに対応していればよい」という時代でもなく、「気候変動にどのように対応していくのか」、その「How」が問われ始め、人権や生物多様性なども含めた様々な課題が複雑に絡まり合っている。そのような状況で、運用機関に対しては、いかに長期的で安定的なリターンの向上を実現しながら、ESG 課題解決に貢献し、その成果を出していくかが今まで以上に強く求められている。このような世界的な潮流があると認識しています。日本においても、責任投資の重要性を巡る議論が急速に進んできており、「なぜ責任投資が重要なのか」という、そもそも論から具体的な ESG 課題の組み込み方の詳細に至るまで、議論の裾野も広がっています。

Will 一方で、グリーンウォッシングのように、「責任投資」や「サステナビリティ」といった考え方が正しく広まっていないように見受けられる事例なども散見されます。私たち運用機関は、フィデューシャリーとして、お客さまの誤解や混乱を避けるため、自分たちの取組みについてきちんと説明する責務もあると思います。

加藤 社内の関係者と責任投資に関する勉強会を行うことはもちろん、お客さまをはじめとした社外のようなステークホルダーの方々に対しても、ESG 課題とはどういうものか、その定義や目指す姿、なぜそれが重要なのか、その理由などもしっかりと説明した上で、どのように取り組んでいるのか、自社の具体的な取組みを発信することが重要ですね。

Will そのためには、私たち運用機関自身も理解を深める努力を続ける必要があります。ESG 課題やその影響についての正しい理解、効果的なエンゲージメントの実践。情報収集力や、業界内の他の投資家との協働アプローチによる貢献・成果。これらこそが、理想的な責任投資の条件ではないのでしょうか。私たちは全ての正解を知っているわけではなく、現在も日々学んでいる過程にあります。責任投資市場がどのように発展しているのか、ESG が投資先の業績や事業活動にどのように影響し、投資先は社会や環境にいかにも多様な影響を与えているのか。絶えず学び続ける姿勢やソートリーダーシップを持つことが大切だと思います。

加藤 その通りですね。企業が事業活動を自由に行える環境は、当然のことながら所与のものではありません。コロナ禍をはじめ、気候変動、人権・貧困・格差など、世界では様々な問題が絶えず起きています。様々な課題が複雑に絡み合う中で、投資家への期待も、今まで以上に高まっており、その役割の実践と課題解決への貢献が問われていると強く実感しています。運用機関として「何を目指しているのか」、「なぜその姿が重要なのか」、「どのようにその姿に向けて取り組んでいくのか」など、運用機関の考え方を投資先と共有しながら、絶えず学び続け、取組みのレベルアップを図り、ともに Win-Win となる関係を目指していく。そして、より幅広いステークホルダーの方々に責任投資や ESG 課題を「自分ごと」として認識していただけるよう、その重要性の情報発信を強化し続けていくことも大切だと考えています。これからも世界クラスの投資家を目指し、ともに進化を続けていきたいと思います。